



【自分の運命を変える信仰の力】

聖書本文:士師記11章1-11節/暗唱聖句:詩篇23篇4節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安でみなさんの心も体も守られましたか。何よりも、一昨日奈良市で街頭(がいとう)演説中に安倍晋三元首相(67)が銃で撃たれて亡くなられた蛮行、テロの事件で、みんな驚き、ショックを受けられたでしょう。一番安全な国だと思っていた日本の国内で、一番有力な元総理が、演説中に、それも銃で撃たれ死亡するなんて信じられない事件だったのではないのでしょうか。ご遺族含め、日本中国民の上に、主の慰めが豊かに注がれますように切にお祈り申し上げます。そして、その犠牲の上で、本日全国で行われる第26回参院選の投票にぜひ参加して、さらに日本が国民の、国民による、国民のための一番ふさわしいリーダーが選ばれるように、祈りつつ、是非大事な宣教権をお使い下さるようお願い申し上げます。

今回の元安倍総理の逝去(せいきよ)のニュースを続いて聞きながら、私は、改めて、本当に人の人生は、どんな人でも、だれでも関係なく、これからの寸前(すんぜん)先のことすら、どうなるのか分からないものが人の人生であることと、いつかみんな一度この世を去る時が来ますが、その日がいつなのか神様は教えて下さらないので、いつも神の御前で許され、生かされている日々謙虚に、謙遜に歩まなければならない存在であることを改めて教えられます。

また、原因ははっきり分かりませんが、どちらにせよ、今の時代、ますます人の心と感情のコントロールが出来ず、あのような極端な事件が日本の中で、相次いでいるニュースを見ながら、今の時代だからこそ、自身の心と思い、感情を、さらけ出し、神様に頼る信仰が必要でしょう。また、変わらない真理の聖書の御言葉による神の励ましと知恵と、希望が必要な時代です。自分一人で自分のうちに全部飲み込んだり、我慢し続けるのではなく、神の家族の存在と関係があって、お互いに心の本音を分かち合い、打ち明けながら、支え合う関係がもっとも大切な時代に間違いないと信じております。

みなさんは、自分や他人の運命論を信じますか。もしかして、もしも、ある方が一昨年召された元阿部総理がそうなる運命だったと言うならば、みなさんはどう思うでしょうか。みなさんはそれに同意出来るでしょうか。

世間の運命論というのは、人はみんなそれぞれ生まれながら、すでに定まった運命があって、それに逆らうことも、変えることも出来ないのが人の人生である教え、思い込んでいる方々は多くいるかも知れません。しかし、聖書の結論から言いますと、聖書では、一切運命論を断り、非聖書的な思想であり、考え方です。すなわち、神様は人をロボットみたいに運命論にただ従う者のように造られたのでは決してなく、人それぞれに自由意志を与え、人が自分の手で、選択し、決めていくように造られたのです。

たとえば、イエスキリストを自分が受け入れることも、断ることも人の手で決めることができる自由を与えて下さったわけです。神はすべての人が祝福され、恵まれ、救われ、幸いで豊かな人生を送ることを望んでおられるお方であることを今まで我らは聖書を通して十分に学ばされて来ています。

本日の御言葉には、生まれる時から、とても不幸な環境の中生れ、苦しい状況の中で育ち自分の人生を運命論のせいにして諦めず、色々な逆境を乗り切って、自分の人生を変え、大いに祝福され、用いられた一人の信仰の人物の内容が書かれています。ご一緒に学んでみたいと思います。

<① 12人中8番目の神の裁きつかさだったエフタ(Jephthah)>

まず、エフタの状況をより正しく把握するためには、彼が出ている士師記の時代についてまず知る必要があります。旧約聖書の中士師記に出て来る裁きつかさ(士師)の意味は**ヘブル語**で‘ソパティ、ショパート(shophet)’と言います。その意味は言葉どおりに‘民の訴訟(そしょう)を裁判する者’という意味として‘裁きつかさ’、もしくは‘治める人(judge)’、‘救う者(deliverer, savior, 士師記3:9)’という意味もあります。イスラエルに神様によって王がない前の約350年間(1388-1052年BC)、神様は13人の裁きつかさたちを立たせ、彼らをイスラエルの民たちのために用いてくださったことが分かります。イスラエルの民が罪を犯し、墮落して、周囲の国々の圧制に苦しめられると、イスラエル民は神様に赦しと助けを求め、神様は裁きつかさを立てさせ、イスラエルの民を赦し、救って下さいました。しかし、神様が救って下さると、また時間が経てば、イスラエルの民は再び神を離れ、罪を犯し、また神に背をむけることを繰り返しとなり、その罪の結果、苦しめられると、また神に赦しと求め、赦され、救われる！こういう悪循環のサイクルが7回も士師記で続けられているのが分かります。「罪-圧制(苦難)-懇願(求め)-赦し&救い」

士師記の時代は一言で言うと、旧約の霊的暗黒期だったと言えます。士師記はこの時代のイスラエルの民たちの状況を「そのころイスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。」と聖書箇所が、二度も同じく表現されています。(士師記17:6,21:25)

「(人々が)それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。」ということは、まさにこの時代を守るべきルールも、規範もない無法の時代だったという意味です。各自自分たちの考えと行動だけが正しいと思い込んでいたので、人の墮落と不正と腐敗だらけで、どんな時代の時よりも深刻な罪深い時代になりかねなかったでしょう。これがまさに暗黒時代になった士師記

が書かれた時代の特徴です。まるで、教会歴史の中でも中世時代が霊的暗黒の時代だったように、旧約の時代、裁きつかさの時代というのはイスラエルにおいて霊的に一番暗い時期だったかも知れません。

今日の本文のそのような暗い裁きつかさの時代、特に、裁きつかさの中とても有名な人だったキデオンの時代が終ってから、二人のトラとヤイルという人たちが続いて裁きつかさとしてイスラエルで働いていました(士師記10:1-5)。しかし、イスラエル人たちがまた罪を犯し続けていたの時、神様は周囲のアモンという部族がイスラエルに絶えず攻撃し、特にそのためギルアデの人たちは苦しめられていた時代に現れた人物がエフタでした。

<②苦しみ続けられるエフタ(Jephthah:意味:“彼が開いた”と言う意味)の人生>

今日のエフタはイスラエルの12人の裁きつかさの中の8番目の裁きつかさでした。

エフタの父であったギルアデという人は、すでに結婚して浮気をしたのか、正式に結婚する前にそうしたのか、はっきりは分かりませんが、彼は快楽に酔っていた男で、遊女の女と性的な関係をもったことで命をさずかり、男の子がその遊女の女から生まれ、彼がエフタでした。彼の父ギルアデは良心的だったのか、生まれたエフタを自分の家に連れて来て育てます。たとえ、エフタは遊女の女から生まれた出生背景であっても、エフタは気おくれするなく、頭が良く、戦いにも才能があり上手で、リーダーシップもあったようです。

いつからかははっきり分かりませんが、エフタは早くも神を心から信じ、しっかり神に頼りつつ、育てられたようです！おそらく小さい頃から抱いていたその信仰のゆえに、小さい頃から他の人と違った保守的だった時代、さまざまな逆境や苦しい時をよく耐え、乗り越えて来たのではないかと思います。

しかし、エフタのまわりの環境はますます苦しくなります。父ギルアデの正式な妻を通して、さらに多くの息子たちを産まれたことにより、悪化されました！小さい頃、違うお母さんから生まれて来た子供たちが大きくなればなるほど、いじめは一層ひどくなり、ずっとエフタを苦しませ続けたことが分かります。エフタは、正式に結婚して産んだ正式な子供でもなく、それとも一番身分の低かった遊女の女だからと言ってどれほどあざ笑いながら、まるで、エフタは過ちで生まれた存在！この家の恥のような存在！乱れた存在！かのように家の中で、また街の人々からも無視され、さげすまれ、軽蔑されたでしょうか。

きっとギルアデの妻と生まれた子供たちみんな、あのエフタだけがいなければ、我が家族は幸せなのにといつも追い出そうと必死だったのではないのでしょうか。みなさんも、だれかが自分のことではなく、親のこととか、家族の事とか、出身のことや自分の弱点についてうんうんされると、どれほどプライドが傷つけられ、なかなか我慢できないと思います。

エフタも、いくらでも自分の親のせいで、自分の周りの人々のせいで、苦しい周りの環境のせいで、自分がこうなってしまったと極端的に周りの全ての人々に恨みを持ちながら生きる人間にもなりうるでしょう。

あるいは、自分がいくら頑張っても、遊女の女から生まれた出生の身分はずっとついて来るものだったため、何の努力もせず、無気力で自分の人生をほったらかし、諦める人生として生きるのも可能だったでしょうが、エフタは小さい頃からの母親が違う兄弟たちからののしられても、いじめられてもサムソンのように感情的に爆発したりそうならず、そのまま仕返しした内容はどこにもありません。彼の中にある神様への信仰が耐え忍ばせたのではないのでしょうか。

それに、家の兄弟たちが見てさらにやきもちに燃え上がった理由は、エフタがあんなに恥ずかしい遊女の女から生まれたみじめな出身なのにもかかわらず、エフタが他の子どもたちよりも、優秀で、優れた能力も持ち、勇士のように戦いにも優れ、リーダーシップもあって、他の人たちからよく認められていたからです。他の兄弟たちにとっては自分たちがエフタに及ばないことにも相当の気にやむ存在、嫌な存在だったのではないのでしょうか。

さらに、エフタの苦しみはさらけ続きます。今回はさらに深刻で厳しい状況に置かれてしまいます！2節で、当時のイスラエルの法として、結婚した正式な妻から生まれた子供以外には財産を分けることはできませんでした。ですから、エフタには正式に結婚したお父さんの妻から生まれた子供ではなく、遊女からの息子だったので、一銭の遺産相続も受けることが出来ない状態でした。そして、エフタの父ギルアデの妻によって生まれた子供たちが成長した時に、その兄弟たちに目障(めざわ)りな存在であったエフタを結局家から追い出そうとするいたずらが、エフタの命まで脅かされたのか、3節には、「エフタは兄弟たちのところから逃げて行き、トブの地に住んだ。」のです。

愛する教会の信仰の家族のみなさん！それに、ただ追い出したものではありません！3節を見ると、ただ住んでいた町から追い払われるぐらいだけではなく、二度とイスラエルに現れるなど命に脅かされたのか、イスラエルの他の町にも住むことが許されず、逃げた状態で、今日、シリアの地のトブというところまで行ってやっと住んだと書かれているほど、イスラエル国から追放(ついほう)されていたことが分かります。

エフタは悲しみもだえつつ、家の家族だけではなく、町や、同じ民族であったイスラエルから捨てられ、離れないといけませんでした。エフタがシリアにあるトブというところまで逃げて、そこで住み着きます。

しかし、人々は彼を裏切り、捨てたかも知れませんが、神様はずっと彼から離れず、彼の人生を見つめ続けておられ、彼の人生を諦めませんでした！逃げて来たシリアのトブという地でも、神はエフタとともおられ、彼に与えて下さった賜物を与え、発揮

するように、エフタを用いて下さいませ！彼にあまりにも苦しみの中、知らないうちに益々強く鍛錬され、訓練され、磨かれて人格とリーダーシップ、戦える力に色々な苦しみの中でさまよっていた大勢の人々がエフタのところに寄せられて来ます。

遠くからうわさを聞いてエフタとともに一緒にしたい人々が懇願し、どんどん集まって来ました。ならず者(3節、新改訳3版「ごろつき」)つまり、この人たちは社会で罪を犯した人たち、人々から疎外され、捨てられた人たち、仕事がない人たちなど、人生の生きる目的が分からずさまよっていた多くの人々でした。しかし、エフタはそのような人たちであっても全部受け入れ、ともにします。エフタ自身こそ、彼らの恨み、苦しみ、悩み、辛さ、裏切り、嘆き、悲しみ、さまよいの痛みを誰より、子ども頃から経験して来た者だからこそ、そのような人々を理解、情け深く受け入れられる広い受け皿のようなリーター的な存在となったのです。彼らの指導者としてリーダーとなったエフタはそこで神から与えられた才能を生かして、希望を失った人々にチャレンジを与え、寄せられた来た人々を訓練し、教え一つのイスラエルにも噂になるほど大きな勢力になったでしょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！神様には過ちも、失敗も決してありません！エフタが生まれたのも、先が見えない苦しい、辛い人生のトンネルを続けて歩かせたのには、人が知らない神の素晴らしい計画があった事が分かります。このようにエフタを用い、将来、イスラエルを救い、多くの人を生かし、導く神の者として、用いるためのすべてのことがプロセスにすぎなかったことを、エフタを通して、我らは教えられます。

もしも、エフタが兄弟たちから追い出されたとき、人生を悲観し、恨めしく、`神様、どうしてですか、どうして、私だけにこんな苦しみばかり、連続にさせるのですか`、`どうして私だけ遊女の母から生まれさせ、こんなに無視され、追い出されようにまでさせるのですか。`、`私にどんな罪があるのでしょうか？ どうして私だけにですか？ もう疲れ果てています。もうこれでおしまいです` 自分の人生を悲観したあまり、自殺を図ったり、自分をずっと苦しめ続けて来た兄弟に復讐したというのであれば、エフタの内容は聖書に記録されなかったでしょう。かりに、そうなのであれば、エフタは聖書に記録も、裁きつかさとして選ばれ、神に大いに用いられることも一切なかったでしょう。しかし、エフタは自分の人生を悲観しませんでした！自分の人生をどんな時にも決して諦めませんでした！追い出され、逃げられる状態に追われても、その人たちにすでに持っている自分の力で復讐しようとしたり、恨みながら戦おうとしませんでした！！

なぜ、どうして、そのように出来たのでしょうか。どうして、環境や周りの状況、他の人々に振り回されず、流されず、動揺されず自分を守る事が出来たのでしょうか。

世の全ての人々が全部自分を捨てても、自分を決して見捨てることも、離れることもされないお方！神様を全てを尽くして信じていたからです。みんなが変わり、みんなから裏切られても、永遠に変わらず、自分の味方となって下さる神様の存在がいつも自分の中に共におられますからという信仰の確信のゆえに耐えられたのです。

神様がこの世に生まれさせて、今、ここまでわが命を守り、生かして下さっているのには、わたしに対するきっと、私への神の特別な目的と使命があるだろうとそう信じていたように感じられます。

彼にはこのような信仰があったゆえに、自分の人生をあきらめたり落胆したり、挫折し落伍者にならず、忍びつつ乗り切って来ることが出来たのではありませんか。

実は、真の信仰は、困難の時、試練の時こそ、その人が持っている信仰が試され、信仰の状態が分かるようになります。

困難の時に人はすぐ目の前のことしか見れないかも知れません。しかし、神を見上げると、今のこの問題、この試練、この現実を向こうの先のところが見えて来ます！そして、今が決して、全てではないことを認め、今の時を通して、神様がなさろうとする御業を信じ、希望と期待を抱けることが本物の信仰の力ではありませんか。エフタの現実はみじめでしたが、どんな時にも人より、神様の存在を先にし、神のみにたよりつづけたことが分かります。

<③人生を変え、大いに用いて下さる神様>

人生の手におえない様々な問題と苦しみにあきらめないで、希望と望みを神様に持ち続けて来たエフタについて神様はチャンスを与えて下さいます。神様の時に神様は神の方法で、エフタを逆転させ、用いて下さいます。

今自分の母国であるイスラエルには隣の18年間苦しみ続けて来たアモンという部族人がいました。このアモン族からイスラエルは、激しい攻撃を受け危機に陥られているのに、イスラエルを救える頼れる勇士がだれもない状態だったそうです。ようやく、イスラエルの長老たちはエフタを思い出しました。‘エフタがいたなら、彼のような勇士、彼の知恵と力によれば、何とかかなりそうなのに....いまエフタは何をしているのかい？’トブという地に住んでいると聞いたイスラエルの長老たちはエフタに直接助けを求めにトブの地にまで訪ね、切にお願いすると、エフタはそんなに待たずその場で快く承諾(しょうだく)します。

そして次のエフタが話した言葉に注目して見ましょう。9節をご一緒に読んでみましょうか。「エフタはギルアデの長老たちに言った。「もしあなたがたが私を連れ戻してアモン人と戦わせ、主が彼らを私に渡してくださったなら、私はあなたのかしらになるろう。」

このエフタの言葉にはただ自分が国の王になろうとする野望の内容ように見えますが、核心的な大切なポイントは彼の言葉に神様が入っています。その言葉には神様が中心に刻まれています。

“神様が渡してくださったなら、神様が許して下さったなら、神様が助けてくださるなら...”

そして、本文の11節「エフタがギルアデの長老たちと一緒にいき、民が彼を自分たちのかしらとし、首領(しゅりょう)としたと

き、エフタは自分が言ったことをみな、ミツパで主の前に告げた。」を見ると、戦争に出かける前にエフタはイスラエルの民たちが礼拝していたミツパに行き、神様に心を注ぎ出し、神に求め、祈っています。もう一度自分が戦う前に、まず、最優先に神の前に出て、全てを正直に打ち明け、さらけ出し、主の御助けを切に祈るエフタの姿を見ることが出来ます。エフタは苦しい人生を送って来ましたが、彼には何かする前に、どんなときにも、とにかく、まず、神様に相談し、神に頼り、神の助けを求めることを一番優先であって、大切だったという証拠ではありませんか。

エフタはどれほど**神中心、神優先**とした信仰を堅持していたことが分かります。

自分には神様しかないかのように、大切な戦争の前に、まず、神の御前に出ていきます。どれほど、徹底的に神様中心、神様との関係を最優先に保って来た信仰者であるか分かります。神様は神様の時に、人々からののしられ、捨てられたエフタを逆転させ、イスラエルの人々の前に高くあげ、イスラエルの裁きつかさとして立たせ、勝利を与えて下さいました。

エフタを見ると、他創世記に出て来るヨセフと結構似ているように見えませんか。ヨセフも兄たちに憎まれ、兄貴たちに裏切られ、エジプトに人身売買され、奴隷となり、また、誤解され牢獄まで傷だらけで、苦しみの連続の人生でしたが、ヨセフも人生をあきらめはしませんでした。なぜなら、**彼にも続けて神様のみを、信じ頼り、見上げて続けた信仰があったからです。**

みなさん、苦しい時、周りをふりむいて見ると、だれも見えない時があります。しかし、信仰の目をあげると見える方があります。それは我らの救い主イエス・キリストです。インマヌエルの神は今も、いつも私たちとともにおられます。ヨセフも、エフタもほかの人たちにより、傷だらけで、一生涯恨みと仕返すことに執着したならば、人生はそれ以上変わらないままで、終わってしまったかも知れませんが、しかし、神様への絶対信仰を立たせ、信仰によって進ませ、信仰によって、貫き、神のご計画通り、人生は変わり、大いに用いられた人生となったことが分かります！

愛するみなさん！我らが信じている神様はそのようなお方であり、今も変わりありません！それを信じますか。

彼らが自分たちの中にあるくやしさを、自分たちに傷つけ、捨てた多くの人々に感情的にならず、自分で直接仕返ししようともしませんでした。そして、その問題すべてを全能なる神様の御手にゆだねまかせました！

“神様、今の私の辛い心をご存知です！私の今の悲しみと恨み、くやしさをあなたはすべて知っておられます！これらのことに私が沈まれないように、私の信仰が揺るがされないように、心が苦しくて分かれないうちに私を強くし、助けてください。今のこの苦しみも、あなたが許して下さいましたことに、あなたの御旨をはかり知ることには決してできませんが、必ず、あなたに私の考えと思いを超えるあなたの素晴らしい計画があることを信じます。ですから、神様ご自身が全てを任せ、御心通り、全て解決し、最善に導いてくださるように御手にゆだねます。”彼はきっといつも神様の御前でこんな祈りをささげ続けたのではないのでしょうか。

愛する信仰の家族のみなさん！詩篇121-2篇を読むと「**1私は山に向って目を上げる。私の助けは、どこから来るのか。**

2私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」エフタは真の信仰の力の秘訣を知り、体験していました。

神様はエフタにチャンスを与え、イスラエルの指導者として立たせ下さいました。

世の人たちはエフタのうわべだけ見て、遊女の息子だと無視し、彼を見捨てましたが、神様だけは彼の心の中心を見ておられ、彼をさらに祝福し、彼の人生を豊かに満たして下さいました。

ですから、神様の御前では自分の出身、家の環境、学歴、財力、収入、能力などは重要なことでは決してありません！

人はうわべを見て人を評価したり、比べようとしますが、神様はその人の中心にある神様への本当の信仰の姿！を大切にしておられます。

ですから、クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！**信仰が一番大切です。信仰が最優先になるべきです。**

今年、コロナの状況が続いても、治まっても、どんな場合にも揺るがない信仰をもって今年一年も神様のみに信じ続けて歩みましょう。決して、目の前の現実ばかりを見て、神様を除かないで下さい。忘れないで下さい！

私たちが最近毎日、読み続ける御言葉があります。苦しくて、疲れ果ててしまった時、いつも暗唱する御言葉があります。みなさんもお存じの**詩篇23篇の御言葉**です。「**1主は私の羊飼いです。私は、乏しいことはありません。」**から始まる有名な箇所です。エフタにこの詩篇23篇の箇所から一番力となった箇所を選ばせたなら、きっと**4節-5節**の御言葉ではなかったのかと思います。「**4たとえ、死の陰の谷を歩むとしても、私はわざわざいを恐れませんが、あなたがともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。5私の敵をよそにあなたは私の前に食事をととのえ、頭に香油を注いでくださいます。私の杯はあふれています。」**

<まとめ>

愛する信仰の家族のみなさん！今日エフタのような神様に委ね続け、頼り続け、見上げ続ける信仰！を私たちも毎日確かめ、しっかりと持ち続けて歩んで生きましょう。今しばらく思わぬ状況と現実が続いても**“主は私の羊飼いです。私は絶対乏しいことはありません！2主は私を緑の牧場に伏させいこいのみぎわに伴われます。主はわたしのたましいを生き返らせ、御名のゆえに私を義の道に導かれます”**そしてどんなに今の自分の人生が死の陰の谷を歩いているとしても、神様は私とともにおられることを信じているから、恐れませんが、落胆しません！信じて日々告白しましょう。今みなさんにどんな苦しみや悩みがあるとしても、神様がエフタにされたように、我らも神様を信じるその絶対信仰を持って、人生を変えて行くことが必ずできるのです。

今日、ここに集っておられるクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族みなさん！コロナなど続いている様々な困難の中であって神様を見上げ続け、信仰を強く握って、必ず、主がみなさんの信仰の通り、人生を変え、勝利に導いて下さることを信じます。今月も生きておられ今も我らと共におられる神の御力を体験していく全信仰の家族となりますように神の祝福を切

にお祈り申し上げます。アーメン!